

# 山口県教育

Education of the Yamaguchi prefecture

明日を拓く — 豊かな実践に高める —

1



## ◎第17回やまぐち教育の日 山口大会 第46回教育県民大会

大会概要 柳井支部 副支部長 瀧山 絹代  
美祢市立大田小学校 校長 田中 善人

### ■第31回「金子みすゞ賞」童謡詩入賞作品

下松市立久保小学校 1年 村田 夕奈  
岩国市立愛宕小学校 校長 世良 泰章

### ■第10回「わたしの志」作文入賞作品

周南市立岐陽中学校 3年 住中 祐介  
防府市立新田小学校 校長 久保田裕三

### ■わたしの潤い

和木支部 二武 功  
下関支部 山本 郁夫

### ■教職時代を偲ぶ

美祢支部 篠田 芳江

平成29年度 第70回山口県学校美術展 推奨作品

「千本鳥居」

下関市立豊洋中学校 2年生 (受賞時) 山本 寿子

## 一般財団法人 山口県教育会

〒753-0072 山口市大手町2-18 TEL 083-922-0383 FAX 083-922-5768

URL <http://www.ykyoikuk.or.jp> E-mail [ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp](mailto:ykyoikuk@ruby.ocn.ne.jp)

明治36年4月第1号 毎月1日発行 発行人 会長：倉増誠彦／編集長：山本晃久

**あなたのアクションは…**

山口県教育会がすすめる  
「元気やまぐち」三つのアクション

- ◎あいさつ 返事で 明るいやまぐち
- ◎笑顔でつなく 安心やまぐち
- ◎ゴミ 落書きのない 美しいやまぐち

# 第17回やまぐち教育の日・第46回教育県民大会 山口大会



来賓祝辞  
山口県教育委員会教育長  
浅原 司 様



大会会長挨拶  
倉増 誠彦 様



来賓祝辞  
山口市長  
渡辺 純忠 様



来賓祝辞  
山口県議会議長代理  
山口県議會議員  
藤生 通陽 様

## 開会行事



山口市立大殿小学校合唱部  
・「出発」  
・同声3部合唱とピアノのための「バベルの塔」  
・「ふるさと」(会場のみなさまと共に)

## アトラクション

大会主題  
「明日を拓く」  
地域と学校の新たな関係を築く

期日 十一月十七日(土)  
会場 山口県教育会館ホール

## 入賞者表彰及び朗読



### 第10回「わたしの志」作文

- 最優秀 山口県教育委員会教育長賞  
住中 祐介 周南市立岐陽中学校 三年
- 優秀 山口県教育会長賞  
宮内 若菜 萩市立明倫小学校 五年
- 森永 翔大 下松市立末武中学校 二年
- 山中 美月 山口県立山口高等学校 通信制
- 優秀 松風会理事長賞  
木嶋 爽 山口市立大殿小学校 五年



### 第31回「金子みすゞ賞」童謡詩

- 最優秀 山口県教育委員会教育長賞  
村田 夕奈 下松市立久保小学校 一年
- 優秀 山口県教育会長賞  
林田 拓也 光市立島田小学校 六年
- 牛島 惇 山口市立大殿中学校 二年
- 楠元 明香里 山口県立山口高等学校 通信制
- 学校賞 山口市立大殿中学校



開催地挨拶  
山口大会実行委員長  
藤野 正雄 様

## 閉会行事



次回開催地挨拶  
柳井支部長  
吉浦 正明 様



実践発表  
地域とともにある学校づくり  
山口市立湯田中学校 校長 井原 良 様



記念講演  
演題 新たな県づくりに向けて  
講師 山口県知事 村岡 嗣 政 様



### 故郷の力を活かす大会



柳井支部  
副支部長

瀧山 絹代

大殿小学校合唱部の優しく、澄んだ歌声のおもてなしで山口大会がスタートしました。三十数名の部員が、みんなで一つのことを成し遂げようと、表情豊かに歌う姿に感動しました。

凛とした雰囲気の中で、「金子みすゞ賞」童謡詩、「わたしの志」作文の表彰および最優秀賞作品の朗読では、受賞者の皆さんの礼儀正しさに身が引き締まりました。童謡詩を一所懸命朗読した小学一年生は、「かわいい」の一言でした。宮大工を目指す、力強く朗読した男子中学生、七年前からの思いが連綿と心の中に生きており、これがまさに「志」だと深く感じ入りました。

「新たな県づくりに向けて」と題しての記念講演では、村岡知事さんから、基本方針としての「三つの維新」について、それらの具体的な重点施策についてしつかり拝聴しました。知事さんの言葉一つ一つから、将来の山口県のあるべき姿があれこれと想像でき、生の声こそ人に確かに伝えることができるのだと改めて思いました。

湯田中学校の実践発表からは、地域との連携の在り方を学びました。学校像を正門に常掲しての情報提供と共有、地域団体と学校が相互の課題を共有し解決するために開設されたという「湯田中学校ひろば」等の取組みからは「地域とともに」という思いがしつかり伝わってきました。できる領域や範囲内での教職員の地域貢献の具体例も新鮮でした。地域と学校が知恵と経験を出し合い、ともに学び成長していく活動を、双方が負担にならない程度で継続していくことは、大切なことだと思います。「人と人が交われば、笑顔が増える」この言葉が今も心に残っています。

多くのことを学ぶことができた素晴らしい山口大会でした。ありがとうございました。来年度は「白壁の町」柳井市で開催いたします。多くの皆様のご参加をお待ちしております。



### 「地域と学校の共磨き」で教育維新を



美祿市立大田小学校  
校長

田中 善人

パークロードの紅葉に晩秋の柔らかい日差しが映える中、第十七回やまぐち教育の日・第四十六回教育県民大会山口大会が、明治維新策源地の地、山口市で開催されました。

アトラクションでは、今年度NHK全国学校音楽コンクールの中地区大会に山口県代表として出場された山口市立大殿小学校合唱部の皆さんのすばらしい歌声に、心が洗われる思いがしました。

開会行事の中で行われた「金子みすゞ賞」童謡詩と「わたしの志」作文の表彰と朗読。童謡詩「あさがお」では、作者の朝顔の花を「しろいほし」にたとえる豊かな感性とじつと朝顔を見つめる素晴らしい観察眼に、小学校一年生とは思えないすばらしさを感じました。作文「伝統を未来へ」では、幼い頃見た校地蔵院での感動をきっかけに「宮大工になりたい」という夢を膨らませ、その実現に向かってひたむきに努力する作者の強い思いを感じることができました。

記念公演では、山口県知事、村岡副知事から直接、やまぐち維新プランで掲げられた三つの維新についてお話を聞くことができ、貴重な経験となりました。中でも、生活維新としてコミュニティ・スクールを活用した新時代を創造する人材育成への期待の大きさに身が引き締まる思いでした。さらに山口市立湯田中学校の実践発表は、学校と家庭・地域の「共磨きの関係」のモデルとして本大会のテーマに沿ったすばらしいもので、特に子どもたち、地域の方の笑顔がとても印象的でした。

山口県の未来を担う子どもたちの育成に向け、今後ますます学校・家庭・地域と共磨きの関係が大切になってきます。本大会で学んだ成果を、志をもって明治維新への道を拓いた高杉晋作らが奮戦した大田絵堂の合戦の中心地、金麗社横の本校で活かしてまいります。結びに、山口支部の皆様、関係者各位に厚くお礼申し上げます。

# 第31回「金子みすゞ賞」童謡詩入賞作品

## 最優秀 山口県教育委員会教育長賞

あさがお

下松市立久保小学校 一年

村田 夕奈



おつきなまるに しろいほし  
あおむらさき  
あかむらさき  
うすむらさき

あさ ひる ばんで だいへんしん

よぞらに ほしがみえるころ  
かくれてしまった しろいほし

あしたは  
いくつさくのかな

おつきなまるの  
しろいほし



## 最優秀 山口県教育委員会教育長賞

「あさがお」

村田 夕奈

下松市立久保小学校 一年

## 優秀 山口県教育委員会教育長賞

小学生の部

「大人になりたい」

林 田 拓也

光市立島田小学校 六年

中学生の部

「サボさん」

牛島 惇

山口市立大殿中学校 二年

高校生・一般の部

「流れ星になりたい」

楠 元 明香里

山口県立山口高等学校 通信制

## 学校賞

山口市立大殿中学校(校長 松田 和寛)

## 佳作

「サーカス」

木村 心 咲

萩市立佐々並小学校 二年

「ぼくたち」

柘本 優 心

下関市立滝部小学校 六年

「一二……」

藤野 凌

山口市立湯田中学校 一年

「うしろすがた」

藤野 敦 也

山口市立大殿中学校 二年

「みえないちから」

熊本 圭 純

山口県立防府高等学校 二年

「三億年後の友だち」

川原 隆

山口県下関市

「風のペール」

阿部 美智代

滋賀県大津市

最優秀及び優秀作品は、(二財)山口県教育会のホームページに掲載しています。三百四十三編の応募がありました。

## 第31回「金子みすゞ賞」童謡詩 審査講評



岩国市立愛宕小学校

校長 世良 泰章

第31回を迎えた「金子みすゞ賞」童謡詩に、今年も県内・県外から三百四十三編の応募がありました。県内の小・中・高等学校からの応募はもとより、一般の部においては広く県外から多くの作品が届いていることもうれしい限りです。みすゞの詩が広く周知される中、みすゞの思いを受け継ぎながら、自分だけの言葉で表現しようとする動きの広がりを感じます。

最優秀賞の「あさがお」は、毎日の観察の中で一年生らしい見立てのある作品です。最初は「おつきなまるに」と花が強調されていますが、最後には「おつきなまるの」と受け、色や時間の変化の中で花の内側にある白い星に目を向けていく豊かな感性を感じる作品です。

小学生の部優秀賞「大人になりたい」は、大人への大きな憧れと少しの不安を表現しています。いろいろと悩んだあげく、最後には題名と異なった思いにたどり着く子どもらしさを感じられます。

中学校の部優秀賞「サボさん」は、誰もが想像だにしない「サボテンが鳴く」という発想から表現しています。リズムミカルな繰り返しは、声に出して読むことでより楽しく味わうことができそうです。

高校生・一般の部優秀賞「流れ星になりたい」は、様々な対象物に自分を投影しながら、「けれどくしもれない」と優しい気持ちがよく表現できています。作者だけの思いや願いが、詩から温かく感じられる作品です。

審査を通して、応募された作品の一つ一つから作者だけの見方や捉え方、そして自分だけの言葉で紡いでいる詩の世界をたつぷり味わうことができました。

詩は心の声です。詩を書くということは、自分の心の声を文字として表現することです。決して難しくはありません。みすゞさんの眼差しに触れ、ほら、自分の眼差しで身の回りをみつめてみましょう。来年度も、多くの作品の中から聞こえる心の声を楽しみに行きます。



# 第10回 「わたしの志」 作文入賞作品

最優秀 山口県教育委員会教育長賞

「伝統を未来へ」 住中祐介 周南市立岐陽中学校 三年

優秀 山口県教育会長賞

小学生の部

「萩の宝物を生かして」 宮内若菜 萩市立明倫小学校 五年

中学生の部

「日本料理を世界に」 森永翔大 下松市立末武中学校 二年

高校生の部

「私の志 ～健康を学ぶ～」 山中美月 山口県立山口高等学校 通信制

優秀 松風会理事長賞

「ぼくが発明する物」 木嶋爽 山口市立大殿小学校 五年

佳作

「ぼくらの志」 河村亮輔 山口市立大殿小学校 五年

「日本文化の伝承を目ざして」 田中碧一 萩市立明倫小学校 五年

「大きな夢を追いかけて」 中原大凱 萩市立明倫小学校 六年

「頼ることも必要」 中田さや 下松市立末武中学校 二年

「父のような人間になりたい」 宮崎真友子 下松市立末武中学校 二年

「元気な高齢社会を目ざして」 山下はるか 周南市立校田中学校 二年

「薬剤師になりたい」 有井姫菜 山口県立徳山高等学校 二年

「わたしの志」 山下涼花 柳井学園高等学校 三年

最優秀及び優秀作品は、(二財)山口県教育会のホームページに掲載しています。六百六十八編の応募がありました。

## 第10回 「わたしの志」 作文 審査講評



防府市立新田小学校

校長 久保田 裕 三

吉田松陰没後五十年を記念して始められた「わたしの志」作文です。自分の「志」への思いの深さや心の輝きがよく表現されているか、という点を軸に審査させていただきました。

最優秀賞の「伝統を未来へ」は、日本の伝統建築を支える宮大工になり、文化財や建築技術を後世に伝えたいというしっかりとした思いが素直な言葉で語られています。自分を応援してくれる人にも思いをはせ、まっすぐ前に進むとする筆者の様子がうかがえます。

小学校の部優秀賞「萩に生まれたことを幸福に思う」は、自分自身の素晴らしい活動体験から野外活動の指導員になりたいという思いが、確かな言葉で綴られています。題名の通り、萩の風土や文化に支えられての思いがよく伝わってきます。

中学校の部優秀賞「日本料理を世界に」は、海外で日本料理店を開き、料理をとおして日本の文化や心を世界中に発信したいという夢が生き生きと書かれています。料理を、庭園や器、照明などとともに文化としてとらえているところに感心させられます。

高校生の部優秀賞「私の志～健康を学ぶ～」は、原因不明の体調不良によって休学し転学した自分自身の体験から「健康」を深くとらえていった筆者の高校生らしい純粋さがうかがえます。現代社会の課題とも関連づけており、読者も深く考えさせられます。

松風会理事長賞「ぼくが発明する物」は、小さいころの経験とお医者さんへの感謝の気持ちから、子どもでも苦痛に感じない採血や検査の方法を開発したいという、小学生らしい夢が素直な言葉でつづられていて、読む人を共感させます。

全体的に、世の中の役に立ちたいという思いや自分自身の生き方に結びつけて「志」をとらえており、素晴らしいと思います。ただ、文章量の不足や誤字脱字、表記の誤りなどがあるものもつたいないので、推敲や校正を丁寧にするとういと思えます。

どの作品も書き手の心のエネルギーを感じました。特に、その人らしい輝きが表現されている作品は読む人の心を動かします。「志」は、世の中や自分自身への希望や信頼があつてこそのもので、来年もこの「わたしの志」作文に応募して、自分自身の「志」を確かめ、読む人を元気にしてほしいと思います。



# 第10回 「わたしの志」 作文最優秀作品

最優秀

山口県教育委員会教育長賞

伝統を未来へ



周南市立岐陽中学校 三年

住中 祐介

私は将来、日本の伝統建築を支える宮大工になり、貴重な文化財を次世代に継承できる人材になっていきたい。

私は小さい時からなぜかお城が好きだった。宮大工にあこがれを抱くようになったのは、小学二年生の時に祖父母と一緒に行った岩国市の椋地蔵院での出来事だ。当然小さかったのですが、皆さんのことは憶えていないが、父に寺の建物には釘が使われておらず、全て手作業で作られている、と教えてもらったことだけがずっと頭に残った。

その後、熊本で震災が起きた時、熊本城が壊滅的な被害を受けた姿をテレビで見た時に大変ショックを受けたが、復興にどのくらいかかるのだろうか、またどのような人がこんな大変な状態を修復されるのだろうかに興味を沸き、調べると、建設会社の他に宮大工という職人の方が中心となっていることを知った。熊本県のシンボルでもある「熊本城」は今もなお修復工事中だが、宮大工の技術できっと素晴らしい姿になって、熊本県民を勇気付けることになるだろう。伝統建築の技術の素晴らしさに直に触れてみると増々興味が沸いた。

宮大工になるためには、どのような進路があるのか、私は調べることにした。まず、高校でその伝統建築を学べる学校が県内にあるのか、

自宅から通える距離ではどうか。

残念ながら、建築科はあっても伝統建築を学べる学校は県内にはなかったが、日本に唯一伝統建築を学べる学校が熊本県人吉市という所にある事がわかった。宮大工になりたいと思うきっかけが熊本の震災で、宮大工が学べる学校が熊本県にある…。不思議な縁を感じた。私はさっそくその球磨工業高等学校の体験入学を申し込み、夏休みに行ってみることにした。

両親は私が宮大工を目指すことには賛成してくれているが、やはり高校から家を出ることが不安なのか、県内の学校から専門学校の道もあると今一つの反応だったが、球磨工業の体験入学は私にとっても両親にとっても、カルチャーショックだったようで、今では協力的だ。熊本は震災があつたせいか、県全体で復興しているという勢いが業界全体に拡がっているように感じる。とにかくエネルギーでも人も明るい印象だった。震災で壊れた街を早く元に戻していこうという前向きな環境で自分も学び、また少しでも自分も役に立つ人間になりたいと強く思った。

宮大工になるには最低十年は下積みが必要とよく聞く。伝統建築は技法もむずかしく、大変だが、その分やりがいもある。ただ年々人手が減る、需要が少ない等の話も聞くが、日本の伝統建築を世に残し続けていくためには、その技法を継いでいく若い人間が絶対に必要はずだ。私が「宮大工になりたい」と言うと、「今時、貴重な人材だ。」と言ってくれた方がいた。夏休み前に体調を崩し入院した時にともお世話になった主治医の先生だ。体験入学に行けるかどうかギリギリのところでお世話になったが、「貴重な存在。頑張れ」と言って下さったことはとても嬉しく更にやる気になった。

少しずつ自分の夢を応援して下さる人が増えていくと、自分自身もつと頑張らなければと気持ちが入る。具体的な課題をクリアしていかな

ければならない。しっかりと勉強することだ。

自分の夢を実現するには、やはり条件に合う環境に身を置くことが大切だと思う。もちろん環境が良くても、自分自身が甘かったらはいかれてしまうだろうから、しっかりと学び心身共に安定感を持つのも大事だろう。何より職人の世界。私の父も建築関係で仕事をしているので、その世界の厳しさは嫌という程聞かされている。気配り、機転をきかす、要は気のきく人間になること。これは私なりの解釈で相手の立場に立つて物事を考えられることだと思っている。また現場は危険を伴うので危険予測ができるということも重要になるだろう。そして何より、その環境を手に入れるためにはまず受験を成功させること。県外受験のため通常の受験と異なり合格が限られるので、地元の受験者よりも学力が高くないといけないと考えている。また、日本で唯一の高校から学べる伝統建築コースなので、遠くは北海道方面からも受験者がいるらしい。決めたからには、しっかりと勉強を頑張ろうと思う。そして最初にも述べたが、日本の素晴らしい伝統建築を後世に残していくために宮大工になり、宮大工の技術を継承しまた伝承できる存在になっていきたい。これが私の志だ。



「挑戦」は、我が人生の糧



和木支部

二武 功

「挑戦」、この言葉が私は好きである。国語辞典には、「戦いや試合に似せ、チャレンジする」とある。私の中の挑戦は、「自分との戦い、自分とチャレンジ」である。現職時代は、仕事中心で、自分への挑戦はなかなか出来なかつたが、定年後の第二の人生をどのように生きるか考えた時に、この言葉の大切さを改めて認識した。

五十八歳の時、技術の先生の切り絵を観て感動し、切り絵への挑戦を決めた。基本を教わり、錦帯橋、七福神、虎などの干支、美女等々の作品づくりに挑戦した。今考えてみれば、とりわけ六十歳で思わぬ責任のある仕事をいただき頑張った八年間、時間を



みつけた。この切り絵に没頭してきたひとときが、仕事や心を忘れ、休養と明日へ

の活力になった気がする。

六十八歳で総ての職を辞し、身軽になり、妻と温泉旅行を始めた。杖立温泉に行った時は、土産物店にあった竹細工を観て心を打たれ、竹細工に挑戦することを決めた。竹には、真竹、孟宗竹、亀甲竹、煤竹等々があり、それぞれの特徴を生かした作品を作ることができなのが面白い。切り絵、竹細工は、ほとんど独学であるが、要望があり、数カ所で展示会をしたり、錦帯橋は記念品として、七福神は祝い品として、事あるごとにさしあげたりしている。

八十歳になつて挑戦をした詩吟は、週二回先生の厳しい指導を受けている。二年が経過した昨年、ある団体が主催する、平成三十年全国吟詩大会出場を目指して、西中国大会予選に出場し、八十歳以上の部で優勝。名古屋での全国決勝大会に出場することができた。さすが全国は厳しい。入賞することもできなかった。だが、たいへん貴重な体験をすることができた。この体験を生かして、次回も挑戦する。他にも、月二〜三回のゴルフや野菜づくりにも挑戦している。作品を考える楽しさ、出来た時の喜び、挑戦は、我が人生の糧であり、充実した第二の人生を送っている。

健康と趣味の「石二鳥」



下関支部

山本 郁夫

三十八年間小学校勤務の後、長府図書館に三年間勤務した。文書館の史料を整理中に古地図や古文書の内容に深く引き込まれた。古文書に出てくる吉田松陰・高杉晋作・坂本龍馬・豊臣秀吉・毛利輝元・金子みすゞ達は県内でどのように生きたのか、どの街道を歩いたのか、疑問は次第に大きくなり、現在古地図片手に歩いている。

古代の道は山中に隠され迷子になったり、猪や蛇に遭遇し怖い思いをしている。古道を歩く時は蜘蛛の巣や藪が枯れた冬の厳寒のなかを歩くことにしている。登山好きな仲間と古道を発見したときは幸せな一時である。

長府図書館退職を機に、平成二十六年には、豊臣秀吉が薩摩攻めで通った秀吉の道や六代毛利宗広が県内の御国廻りで歩いた「殿さま道」を実際に歩き、まとめた「下関の古道Ⅰ」を出版した。続いて平成二十七年「下関の古道Ⅱ」、平成二十八年は「下関の古道



出版を通して多くの仲間ができた。講演会講師として招

聘されたり、福祉バスを利用し県内の史跡を案内したり、偉人の歩いた道（晋作の道等）を歩くツアーを毎年開催したりしている。

自然いっぱいきれいな空気を吸い、古道を歩き神社や寺院を訪れている。運動不足も解消され、アップダウンのある道はジョギングと同じエネルギー消費もあり、健康と趣味の「石二鳥」がある。古代の人々が自然と共に生き、後世の為に遺した史跡や文書を伝える活動を今後とも続けていきたい。



# 教職時代を偲ぶ



美祿支部  
篠田 芳江

教員となり、四校目に赴任した美祿市立田代小学校の四年間を思い出してみたいと思います。

平成四年四月、初めて複式学級の担任になりました。二つの学年の授業を同時に進める複式授業に不安もちつつ教室に入りました。驚いたことに、子どもたちは、学習の仕方をよく学んでおり、担任が他学年の授業をしている間接指導時にもしつかり学習しているのです。ノートをみると、考えた順序が明らかであり、えんぴつの筆圧もしつかりしています。赤・青の色えんぴつを効果的に使い、線は定規で引いています。共感できる友だちの意見には赤囲みがしてあります。子どもたちの様子から、間接指導時に主体的に学習させる支援が大切なんだと強く感じました。田代小学校の子どもたちを、進んで学ぶ児童に育てたいと願う、これまでの先生方の強い気持ちとご努力を同時に感じました。

田代小の子どもたちは、とにかくよく働きました。児童数に比べて多い教室や広い運動場と外庭。一人で教室を掃除したり、トイレを美しくしたりするのは普通です。もちろん運動場に草は見あたりません。運動場に横一列になり、草取りをします。そのスピード感のある仕事ぶりは、授業中の姿とよく似ていました。このような児童の学校生活を、研修視察で目にされた千葉県の先生が、感動され、目に涙を浮かべていらしたことを思い出します。

田代小の子どもたちが磨いて磨いて、磨き続け、黒光りがしていた教室の床と廊下、草のない運動場は、その後の私の教員生活の拠り所となりました。自ら働

いて学習環境を美しく整える子どもを育てていきたいと考えたのです。

私が勤務した四年間、よく雪が降りました。保護者の方から出勤前に雪の連絡があると、急いで家を出て自家用車を駐車できる場所まで運転。それからは徒歩。

ある日、雪道を上がっていると、トラックが二台停車していました。タイヤにチェーンをまいていた運転手さんが、「よう、ねえちゃん、こんなに朝早くから雪の中を懐中電灯つけてどこ行くんかあ」と尋ねてきました。「学校です」と答えると、「そうかあ、気をつけて行きや、こけんことで」と励ましてくれました。

そのトラックは、校区内のAさん宅の改築用資材を大量に乗せていました。あの積雪の中、私を励ますどころか、運転手さんの方こそたいへんだったろうと思ひ起こされます。学校に着くと、子どもたちがいつものようにスコップを持って校門の坂道の除雪をしています。六年生は、額に汗を流しています。

三月、全校児童がいちばん悲しい日がやってきました。卒業式です。少人数のため、六年生も忙しく準備に関わります。五年生は、式後花を渡し感謝を表します。三人の担任は、伴奏を担当し、ピアノが弾けようが弾けまいが、二曲ずつ練習して当日に臨んでいました。緊張のため伴奏に失敗しても、子どもたちが大きな声で歌ってくれたので私達担任は救われました。



明治維新前の寺子屋が起源とされる田代小学校は、「学び舎」という言葉がふさわしい学校でした。その長い歴史は、惜しまれつつ六年前に閉じました。

たくましい心と体をもった児童達、温かい保護者や地域の方々、そして、子どもたちの指導に本気で関わられた諸先輩の存在を強く感じた四年間でした。

## 支部長会

十二月七日 教育会館

(一財)山口県教育会二十八支部の支部長に集まっていたいただき、地域活動や事業について、さらに年度末、年度初めに向けた事務手続き等について協議しました。

### 一 発表「特色ある地域活動について」

○由宇支部 支部長 塚田 拓司 様

①山口県退職公務員連盟由宇支部との連携

②地域貢献(駅前環境整備「花いっぱい運動」)

③由宇支部内幼保小中(三園四校)への支援

○下松支部 支部長 兼弘 富士巳 様

①県指定無形文化財「切山歌舞伎」の後援

②就学時子育て講座への講師派遣

③年度初め会員増募のための学校訪問

④小中教職員研修会への助成

### 二 事業報告及び協議

(1) 第17回やまぐち教育の日・第46回教育県民大会山口大会について

(2) 第18回やまぐち教育の日・第47回教育県民大会柳井大会について

(3) 第71回日本連合教育会研究大会滋賀大会について

(4) 平成30年度山口県教育会学校別会員数について

(5) 各支部での会員確保の取組について

大島、柳井、熊毛、吉敷、阿東、山口各支部から、様々な取組や工夫について、具体的に情報提供いただき、今後の活動の参考とさせていただきます。

